第１０課　イエスは人々の信頼を勝ち取られた

【暗唱聖句】

「しかし、イエスのうわさはますます広まったので、大勢の群衆が、教えを聞いたり病気をいやしていただいたりするために、集まって来た」マタイ5:15

【今週のテーマ】

わたしたちが行う奉仕を通して、人々の信頼を勝ち取り、キリストに導くことができるようになることを学びます。

【日曜日　信頼を勝ち取る】

イエスは何もせず人々の信頼を勝ち取ったのではありません。人々の利益を図り、同情を示し、彼らの必要に応えることで信頼を勝ち取っていったのでした。信頼という言葉の英語「コンフィデンス」はラテン語の「一緒に」を意味する「コン」と信仰を意味する「フィデス」からなっています。つまり、人々と交わり、共にいることで、絶対的な確信を得るということです。

聖書のヘブライ語の信仰は、アーメンという言葉の由来となった「amn」という言葉から来ています。ギリシャ語では「ピスティス」という言葉で訳されています。これらの言葉は、絶対的な確信、信頼、信仰という意味ですが、これが人と結びつくと、自信とか、誰かを信頼する、依存するなど、否定的に用いられることも少なくないのに対して、神様と結びつくと肯定的に語られます。イエスが人々の利益を図り、同情を示し、彼らの必要に応えることで信頼を勝ち取っていったように、わたしたちもそのように行動することは大切ですが、わたしたちを信頼してもらうのではなく、私たちが信頼している主に対して、同じように信頼するように導く必要があります。

【月曜日　慎重なバランス】

「兄弟たち、わたしはあなたがたには、霊の人に対するように語ることができず、肉の人、つまり、キリストとの関係では乳飲み子である人々に対するように語りました」第一コリント3:1

パウロはコリントの教会の人たちに霊的な奥義を話すことができず、普通の人が理解できる程度の話しかすることができなかったと言います。その理由は、「相変わらず肉の人だからです」（第一コリ3:3）。どのような点で肉の人だというのでしょうか。それは「お互いの間にねたみや争いが絶えない」ことだと言います。教会内でねたみや争いがあるならば、霊的な悟りへと導かれることはありません。これは教会にとって何と大きな損失でしょうか。

ねたみや争いの原因となっている具体的な出来事がありました。それは「ある人が「わたしはパウロにつく」と言い、他の人が「わたしはアポロに」などと言っている」（第一コリ3:4）ことでした。パウロはこう続けます。

「わたしは植え、アポロは水を注いだ。しかし、成長させてくださったのは神です。 3:7 ですから、大切なのは、植える者でも水を注ぐ者でもなく、成長させてくださる神です。・・・3:9 わたしたちは神のために力を合わせて働く者であり、あなたがたは神の畑、神の建物なのです」第一コリ3:6～9

つまり、大切なのは人ではなく、神様だということです。このことは近隣への奉仕においても重要です。教会や教会員の奉仕を通して教会に興味を持ち始めた人たちは、最初神様が良く分からないので教会の人を見ます。そして、その教会員を通して神様に目が向けられていくことが大切なのですが、中には神様よりもその人を頼るようになってしまう場合があります。人から信頼される必要があるのと同時に、頼られ過ぎるようにならないように、慎重なバランスが大切です。そして、神様に信頼し、神様に目を向けるように導くことが重要です。

【火曜日　社会資本】

社会資本とは、地域社会に貢献することで、地域の指導者たちと建設的で良好な関係を結んでいくことを言います。相手がノンクリスチャンであっても、できうる限り良い関係を結ぶべきであり、それは可能なことです。その結果、地域に対して教会や教会員が大きな良い影響力を持つことができます。聖書の中で、ヨセフが良い模範です。

「この族長たちはヨセフをねたんで、エジプトへ売ってしまいました。しかし、神はヨセフを離れず、7:10 あらゆる苦難から助け出して、エジプト王ファラオのもとで恵みと知恵をお授けになりました。そしてファラオは、彼をエジプトと王の家全体とをつかさどる大臣に任命したのです」使徒7:9，10

ヨセフがエジプト王から認められたのは、この世と妥協することによってではなく、神と共に生き、神から恵みと知恵を与えられ、それを現しながら奉仕することによってでした。ダニエルもヨセフと似ています。

「王はダニエルに言った。「あなたがこの秘密を明かすことができたからには、あなたたちの神はまことに神々の神、すべての王の主、秘密を明かす方にちがいない。」 王はダニエルを高い位につけ、多くのすばらしい贈り物を与え、バビロン全州を治めさせ、バビロンの知者すべての上に長官として立てた」ダニエル2:47，48

わたしたちも祈りながら、世と妥協するのではなく、神様から知恵と恵みをいただきながら、地域への奉仕をしていきたいものです。

【水曜日　社会資本の価値】

ネヘミヤ記2:1～9に、宮廷で献酌官を務めていたネヘミヤが、ペルシャの王からエルサレムの再建のために安全と資材をいただいたことが記録されています。バビロン捕囚後、エルサレムを帰還したものと、そのまま残ったものたちがいました。ネヘミヤは残ったユダヤ人の一人でした。彼は献酌官を務めていましたが、献酌官とは王に差し出される葡萄酒の毒味役を務め、王から絶大な信頼を得ていました。その結果、エルサレム再建における様々な援助を引き出すことができたのです。

　教会もノンクリスチャンからの捧げもので、神様の働きをすることがあるかもしれません。ノンクリスチャンからの献金をいただくということに心苦しさを覚える人もいるかもしれませんが、神様はノンクリスチャンの心をも動かされて、神の働きを進めていきます。そして、これはまたノンクリスチャンと共に様々な働きをしていくこともあることを教えています。たとえば、地域への奉仕活動を教会が単独で行うばかりでなく、地域の人たちと協力しながら行うということも素晴らしいことです。

【木曜日　民衆全体からの好意】

わたしたちは一つの民として多くの光を主から与えられています。十字架、安息日、大争闘の理解、さらには癒しと健康のメッセージなど、主から与えられている恵みを地域の人々にも分け与えることができます。「すべて多く与えられた者は、多く求められ、多く任された者は、更に多く要求される。」（ルカ12:48）のみ言葉はまさにわたしたちに当てはまります。

「イスラエルよ。今、わたしが教える掟と法を忠実に行いなさい。そうすればあなたたちは命を得、あなたたちの先祖の神、主が与えられる土地に入って、それを得ることができるであろう。 4:2 あなたたちはわたしが命じる言葉に何一つ加えることも、減らすこともしてはならない。わたしが命じるとおりにあなたたちの神、主の戒めを守りなさい」申命記4:1，2

わたしたちは神様から律法が与えられています、これを忠実に守るならば命を得、この世の生活においても祝福を得ます。だから、主の教えを勝手に加えたり減らしたりしてはなりません。

「見よ、わたしがわたしの神、主から命じられたとおり、あなたたちに掟と法を教えたのは、あなたたちがこれから入って行って得る土地でそれを行うためである。4:6 あなたたちはそれを忠実に守りなさい。そうすれば、諸国の民にあなたたちの知恵と良識が示され、彼らがこれらすべての掟を聞くとき、「この大いなる国民は確かに知恵があり、賢明な民である」と言うであろう」申命記4:5、6

主の戒めを守ることは、地域の人々に対しても良い証となります。厳格過ぎると地域の人々とうまく付き合うことができないのではないかと心配するかもしれませんが、決してそうではなく、聖書は逆だと教えています。人々は神様を感じ、わたしたちを知恵があり、賢明な民というでしょう。そもそも、「いつ呼び求めても、近くにおられる我々の神、主のような神を持つ大いなる国民がどこにあるだろうか」（申命記4:7）。わたしたちは本当に大いなる特権の中に生きているのです。だから、「ただひたすら注意してあなた自身に十分気をつけ、目で見たことを忘れず、生涯心から離すことなく、子や孫たちにも語り伝えな」（申命記4:9）がら生きていくのです。